

健康格差縮小のための口腔ヘルスサービスへのアクセス

-そのバリアをどう取り除くか-

深井保健科学研究所

第20回コロキウム「健康格差縮小のための口腔ヘルスサービスへのアクセスーそのバリアをどう取り除くか」

Overcoming barriers to oral health service access for closing health disparities

UHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）の実現は、2030年までのSDGsに位置づけられている世界共通の目標である。長寿社会の中で、半世紀以上にわたり国民皆保険制度の経験を有している日本は、この分野の国際貢献が期待されている一方、財源、健康格差、サービスへのアクセス等の課題に直面している。この課題を解決していくには多分野連携と予防医療の推進が不可欠であり、いずれにおいても歯科医療・口腔保健の果たす役割は大きい。本コロキウムでは健康格差是正に向けた口腔ヘルスサービスの障壁を取り除く観点から、以下の提言を行う。

1. 小児期から高齢者までのライフコースに沿った口腔ヘルスサービスの障壁を明らかにし、それを取り除くための取組みを政策レベル、関係組織・サービス提供者レベル、および個人レベルで推進する。
2. 財政負担軽減の観点から、歯科医療・口腔保健（健康情報含む）の健康増進効果を検証する。
3. 多職種・多分野連携の観点から、口腔健康の指標を含めたNCDsおよびフレイルのリスク構造を明らかにするための研究を推進する。
4. 医療と保健および介護サービスの連携とそのための多職種連携の指針づく